



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	大学史資料室展示会報告「学藝アルバム：小金井キャンパスと附属学校のあゆみ」( fulltext )
Author(s)	椿,真智子
Citation	東京学芸大学大学史資料室報, 6: 15-17
Issue Date	2019-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/159356">http://hdl.handle.net/2309/159356</a>
Publisher	東京学芸大学大学史資料室
Rights	

# 大学史資料室展示会報告「学藝アルバムー小金井キャンパスと附属学校のあゆみー」

椿真智子（人文社会科学系教授）

## はじめに

大学史資料室の第6回展示会を2018年10月29日（月）～11月12日（月）の15日間、本学附属図書館1階にて行った。これまでの展示テーマは、師範学校ならびに現在にいたる本学の歴史や大学生活等が中心であったが、今回はじめて附属学校に焦点をあてることとなった。この背景には後述のとおり、附属小金井中学校校長室に保管されていた極めて貴重な資料が大学史資料室に寄贈されたことが大きな契機となった。また今回、展示会場として初めて図書館1階正面入口左手「検索コーナー」のスペースを使用した。2015年・2016年度の展示では図書館1階奥の「ラーニングコモンズ」を使用させていただいたが、「ラーニングコモンズ」は学生が普段グループ学習や自習等で頻繁に利用しているため、展示空間としてはややそぐわない面があるのと、場所が奥まわっていてわかりにくいなどの課題があった。今回附属図書館との事前打ち合わせで、入口すぐで目につきやすく、まとまった展示空間を確保できる「検索コーナー」の利用を提案いただき、当資料室としては結果として大変適切であったと認識している。展示期間は11月2～4日開催の「小金井祭」ならびに本学ホームカミングデーを含む期間とした。今回の展示は主に附属小金井中学校の資料を中心とするものであったため、従来からの本学卒業生や在校生・教職員に加え、附属学校卒業生の来場をも期待してこの期間を設定した。実際の来場者は在校生が多くの割合を占めたが、アンケート回答者数だけでも140名弱にのぼった。附属学校の歴史に普段ふれる機会の少ない多くの方々に、附属小金井中学校の歴史と生活史の一端を知っていただくことができたのではないかと考えている。

## 1. 附属小金井中学校と「金中アーカイブズ」

1947（昭和22）年4月、6・3制による新制中学校発足に伴い、師範学校に附属中学校が設置されることとなった。池袋駅西側にあった東京第二師範学校男子部は戦災により本校舎が焼失し、小金井の陸軍技術研究所跡に移転していたため、そこに附属中学校を開設することとなった。ただし附属小学校は依然として池袋に置かれたため、児童・生徒の一貫教育や進路指導等に関する要望もあり、附属中学校は小金井2学級、池袋1学級、計126名の1年生でスタートした。1956（昭和31）年度末には池袋教室が閉鎖され、翌年度から3学年とも小金井に統合された。

今回の展示は、東京学芸大学附属小金井中学校の校長室で発見された記録資料群（以下、「金中アーカイブズ」とする）から選定した資料を中心に企画した。ちなみに「金中」は附属小金井中学校の略称である<sup>1</sup>。「金中アーカイブズ」は、主に東京第二師範学校男子部附属中学校ならびに附属小金井中学校の教育研究活動に関する貴重な記録資料群である。200点近い資料は第二次世界大戦前後から2000年代にかけて作成されたものであり、とりわけ昭和20～30年代の社会や学校現場が大きく転換した変革期の資料が多く残されていたことは奇跡的ともいえる。

学校という場合は、組織・運営や教育・研究活動に関する膨大な記録資料を日々生み出しているが、それを教

育・文化遺産として保存管理し公開・活用することには多くのハードルが存在する。日々の教育活動に加え、社会変化や山積する課題への対応が求められる学校が、アーカイブズに多大な時間・労力と保管スペースを割くこと自体困難ともいえる。アーカイブズ保存・公開と個人情報のあり方との関係も極めて難しい問題である。資料保存への道筋をつけてくださった南道子前校長、そして大学史資料室への移管を快く認めてくださった奥住秀之校長ならびに村上潤副校長にあらためてお礼を申しあげたい。

## 2. 展示構成と「金中アーカイブズ」の特徴

展示内容は次の4部門で構成した。それは、第1部「東京学芸大学と附属学校・園の系譜」、第2部「昭和20～30年代の小金井キャンパスと附属小金井中学校」、第3部「昭和20～30年代における附属小金井中の生活史」、第4部「アーカイブズにみる附属小金井中の教育研究活動」である。「金中アーカイブズ」において注目すべき点の第一は、第3部で扱った「校友会誌（生徒会誌）」や「生徒会新聞」「文集」など、学校や生徒の生活史がいきいきと描かれた資料が多く残されていたことである。

第二次世界大戦前の中等学校には「校友会」という組織が存在し、学校における部活動などの課外活動全般を統括していた。大半の学校では教師が主導的にその管理・運営を行った。戦後は学生の自治訓練の場として再組織化がはかられたが、実際には管理的・保守的性格を内包したまま広く普及していった。「金中アーカイブズ」における「校友会誌（生徒会誌）」や「生徒会新聞」からは、活発かつ多彩な課外活動の記録や激しい議論をくりひろげた生徒会の様子、理想とする社会像を熱く語る教師の姿や自由闊達な生徒たちの雰囲気など、実にさまざまな学校生活が浮き彫りになる。一方、文集には、戦争の影を残した家庭生活の一端や家族関係、自身の生き方に関する思いや社会的関心などが綴られ、教師や生徒たちの幅広い日常が垣間みえる。

「金中アーカイブズ」において注目すべき点の第二は、昭和20～50年代の教育実習記録、とくに実習生の作成した「研究授業指導案」が数多く残されていることである。展示では、数学：単元「遠足」、理科：単元「着物はどのようにしてつくられるのか」、社会：単元「学校や家庭の生活を明るくするにはどうしたらよいか」など、ユニークな視点や題材、時代状況を示す「研究授業指導案」を抜粋して展示した<sup>2</sup>。



展示会場の様子



附属小金井中の生活史に関する展示

### 3. 「金中アーカイブズ」構築と森秀夫先生

「金中アーカイブズ」構築の最大の立役者は、実は附属小金井中学校・元副校長の森秀夫先生である。森先生は東京府豊島師範学校本科第一部、同専攻科を卒業され、戦後、中央大学法学部在学中の1947（昭和22）年に東京第二師範学校に社会科担当の教官として着任された。附属小金井中学校『五十年のあゆみ』（19頁）に森先生が寄稿された「草創のころ」には、当時小金井校舎は「戦時中の陸軍第三技術研究所の粗末な建物で天井もなく、生徒も下駄ばきが多くノートや鉛筆にも不自由する」状態であったことが記されている。

小金井校舎で国立大学附属中学校の社会科教員としての生活を始められた森先生は、本学や他大学で社会科教育論を講じつつも金中一筋の教員生活を送られた。食糧難、物不足の中でも生徒たちと教室の中だけではなく、積極的に校外学習を行っていたようである。1975（昭和50）年には同校副校長として附属学校経営にあたるとともに、社会科教育研究の第一線で活躍された。今回展示した森先生の「昭和20年代の社会科—東京第二師範学校男子部附属中学校の事例—」は、戦後まもない時期における小金井中の社会科教育の実態を知るうえで大変貴重な論考である。

#### おわりに

「金中アーカイブズ」には森先生が記録資料を大変丁寧に整理・保存された痕跡がいたる所に残されていた。書類をとじた多くのファイルに森先生のお名前が記されている。国内最多の附属学校数を誇る本学であるが、教育・研究・経営の資料群がここまで残されている事例は珍しい。森先生の資料的価値を見極める「眼」と後進のために保管しようという意思なくして「金中アーカイブズ」は存在しない。「金中アーカイブズ」の構築は、激動する社会の中で、森先生の国立大学附属中学校教員、そして『全国六・三制義務教育の成立』（時潮社刊）などの著作が物語る教育史研究者としての学知あってこそその仕事であるといえよう。

実は大変残念なことに、本展示会終了日の前日11月11日、森秀夫先生が享年96才でご逝去されたことを後日知ることとなった。本学および附属学校の歴史はもとより、日本の師範学校史・附属学校史研究にとっても極めて重要なアーカイブズを構築してくださった森秀夫先生に深く感謝申しあげるとともに、謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申しあげたい。

#### 注

1 附属小金井幼稚園長で大学史資料室員の君塚仁彦氏によれば、現役生徒の多くは「かねちゅう」と呼ぶ一方で、中学校教職員には「かねちゅう」派と「きんちゅう」派が混在し、大学教員は「きんちゅう」と呼ぶ場合が多いそうである。

2 附属小金井中学校における教育実習や研究授業等については『五十年のあゆみ』において詳細に紹介・解説されている。

#### 参考文献

東京学芸大学附属小金井中学校『三十年のあゆみ』1976年。

東京学芸大学附属小金井中学校『五十年のあゆみ』1997年。

森秀夫「昭和20年代の社会科—東京第二師範学校男子部附属中学校の事例—」『東京学芸大学附属小金井中学校研究紀要XXII』1984年。

森秀夫『全国六・三制義務教育の成立』時潮社、1986年。

## 平成 30 年度活動報告

- ・ ウェブサイトのリニューアル（平成 30 年 5 月 31 日）
- ・ 大学史資料室展示会の開催（平成 30 年 10 月 29 日～ 11 月 12 日）
  - 「學藝アルバム—小金井キャンパスと附属学校のあゆみ—」
- ・ 「撫子会」資料群目録と資料を公開（平成 31 年 2 月 22 日）
- ・ 資料閲覧室を開設（平成 31 年 2 月 22 日）
- ・ 大学史資料室報の発行（平成 31 年 3 月 31 日）
- ・ 資料一時保管室を再整備拡充
- ・ NHK への資料協力
- ・ 法人文書の保存等に関する検討 WG の立ち上げと具体的な検討の開始
- ・ 旧師範学校アーカイブズシステムの運用（継続）
- ・ 50 年史関連資料の目録作成（継続）
- ・ 資料環境の維持（継続）
  - 大学史資料室保存環境調査
  - データロガーの設置による温度・湿度の測定
  - フェロモントラップの設置による虫害虫の捕獲調査
  - 微生物センサによる浮遊菌測定
- ・ 収集資料
  - 附属小金井中学校草創期の資料群
  - 青山師範学校時代の写真 等